

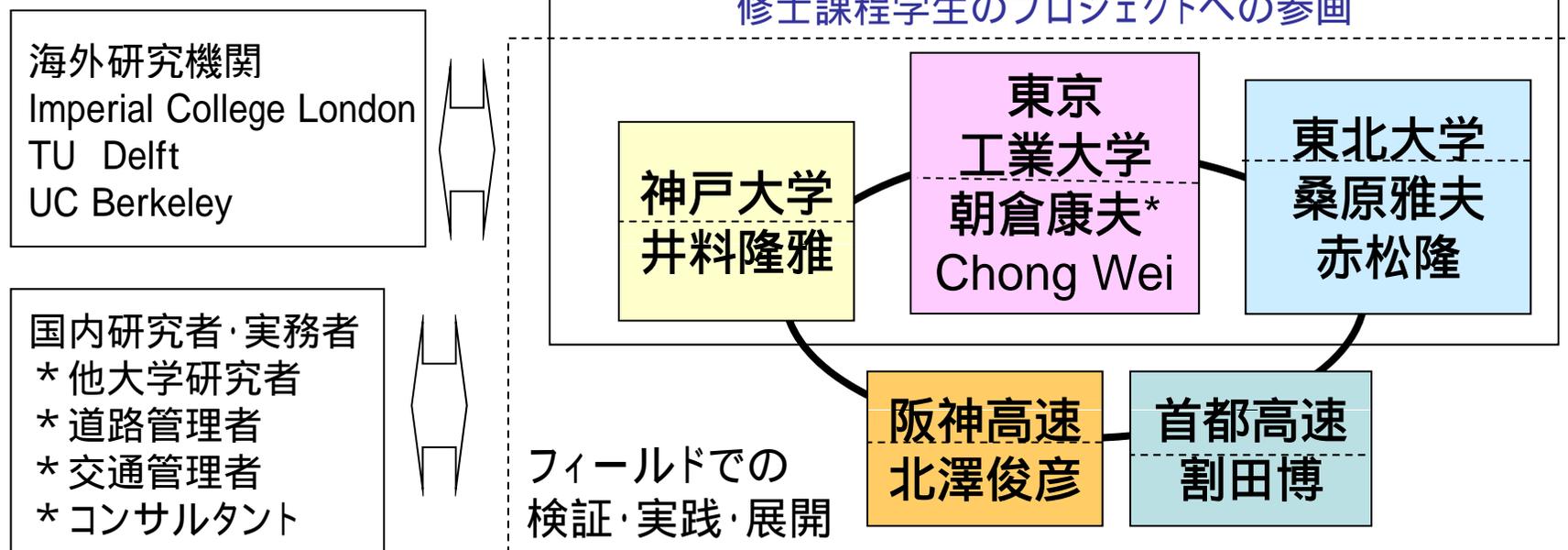
# 都市高速道路における突発事象時の 最適交通運用

## 研究開発の目的

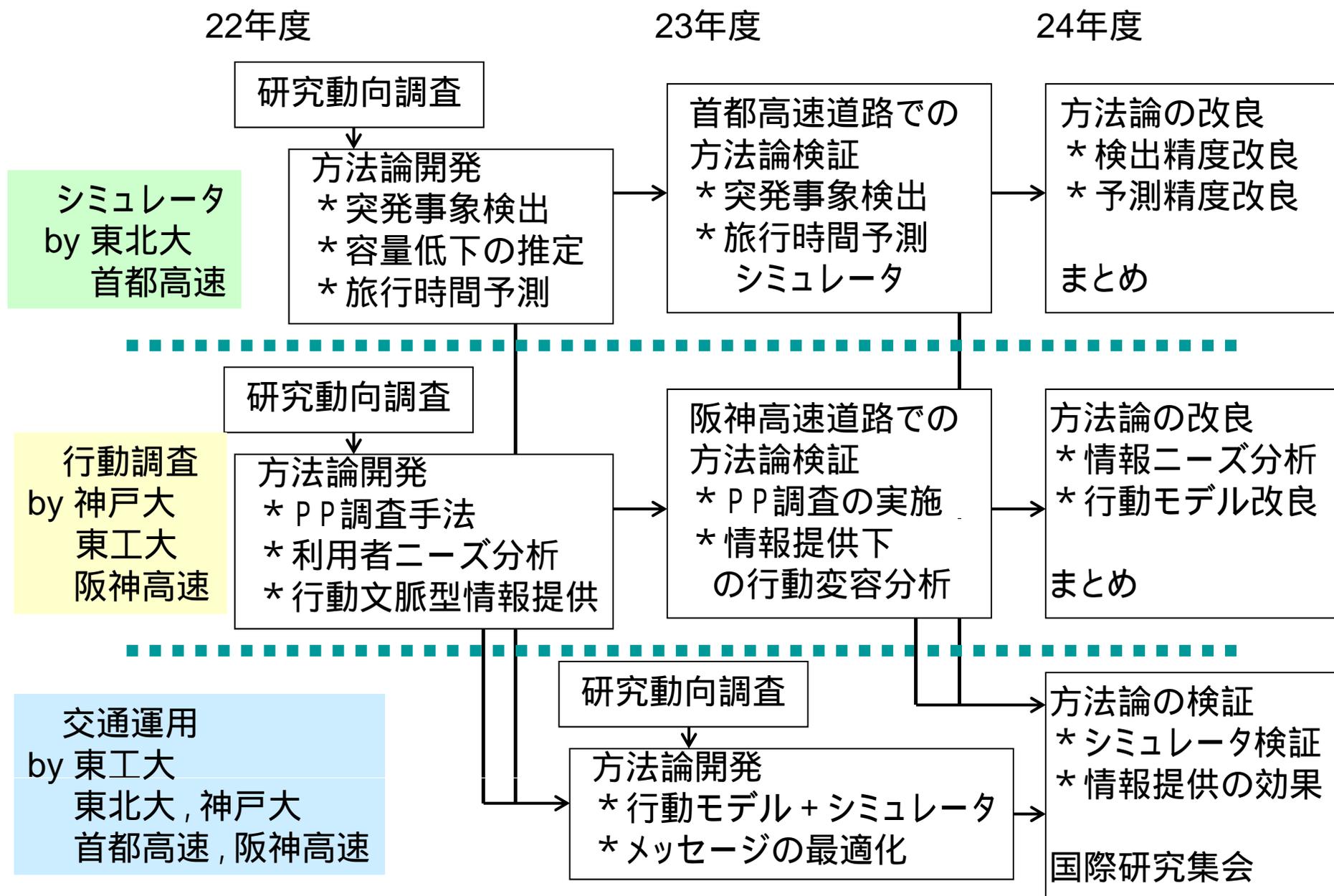
- (1) 突発事象の検出とシミュレーションによる交通状況予測手法の開発
- (2) 観測データを活用した交通情報提供下の利用者行動の調査と分析
- (3) 突発事象の影響を最小化する交通運用方策の開発

\*) 研究代表者

## 研究組織



# 3年間の研究開発スケジュール



# これまでの研究経過

## (1) 突発事象検出手法およびシミュレーションによる交通状況予測手法の検証

- 車両感知器データを用いた突発事象検出手法と車線開放までの継続時間の推定手法について、首都高速道路の交通流データを用いて検証。
- マイクロ交通流シミュレーションによる突発事象時の旅行時間の短期予測手法を首都高速の放射路線で検証。

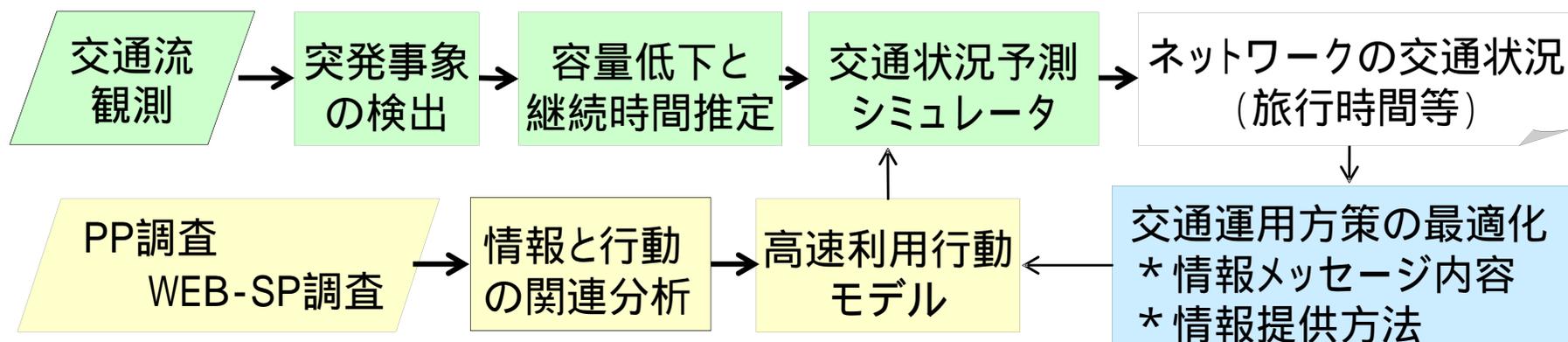
## (2) 利用者の情報獲得行動の調査分析と情報提供方法の検討

- 阪神高速道路利用者を対象に実施した2週間のプロブパーソン調査とWEB-SP調査を実施。
- 突発事象時における利用者のpre-tripおよびen-routeの行動変容を分析中。

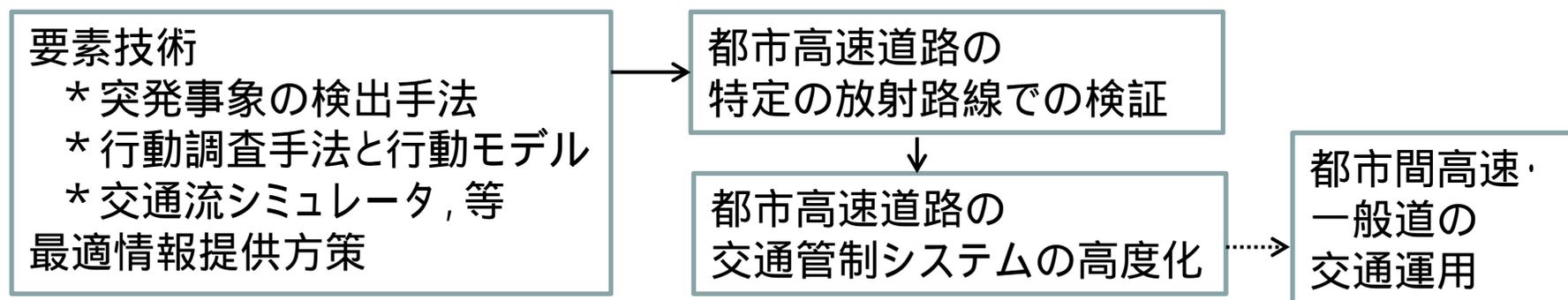
## (3) 突発事象時の最適交通運用手法に関する検討

- 米国、英国、オランダでの国際ワークショップ開催を通して研究動向を把握。
- Cell Transmission Model をベースに、突発事象時の行動変容を考慮したネットワークシミュレータを開発中。

## 研究の成果イメージ



## 研究成果の活用方策と手段



## 国内外へのインパクト

突発事象に対応した交通情報提供や交通運用実務の高度化への直接的貢献  
交通流理論や交通行動理論を基盤とした一般性 / 統一性のある方法論の確立